

# 床工事の需要は増加気味

## デッキ材の採用にも注力図る ケーワンシステム

商業施設などでは屋上でも利用されることで、よりデッキシステムに性能が求められる



ケーワンシステム

(札幌市、原田慶一社長)は、北海道を中心に二重床の供給と施工

を行い、万協フロアの特約店でもある。床工事とともにオリジナルの高性能デッキシステム「K-1」デッキ文を可能にした「文教Pレイタイプ」ストロング仕様もある。

同タイプは、体育館近年の取り組みにつ

の床(デッキ材)で求められる適度な硬さと軟らかさを取り入れたシステム。耐荷重性能試験や転倒衝突時の硬さ試験を行い、使用時の安全性を証明し、高性能であることなどの活用もできる。安全性が確保されたデッキシステムとして、文教施設で採用が増えている。

木材デッキ材「K-1」(デッキ)を行って、同試験では、予定された地震波形(各種)の加振(耐震試験規格)の加振すべの試験で試験値をクリアしている。同試験の詳細は、同研究機構のなかで取りまとめ、今後耐震性能として発表していく。



原田 社長

かで同社は、20年に北海道立総合研究機構建築研究本部での「K-1」デッキ耐震試験(人工

も求められるようになっていがある。同試験では、支持間隔を450mmで取った試験体と支持間隔を900mmにした試験体で、目標加速度600ガル及び980ガルの正弦波で1回ずつ加振した。加振後にデッキ板を取り外して、フレーム部分の破損を目視により確認したところ、破損は見られなかった。

耐震に加え、雨天での長期利用を想定し、天然木デッキや人工木の性能に影響が少ないことを証明している。原田社長は「コロナ禍での巣ごもり需要やキャンプ需要でデッキし、提案を広げたい」と語る。